

新緑の燃える季節、  
馬の背中で風になろう！



# サドルバック& 「自然・馬・人の会」が 北條五代祭に初登場！

小田原名物の北條五代祭が今年も盛大に行われました。

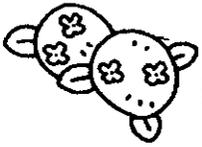
今年は、サドルバックの馬&スタッフと、

「自然・馬・人の会」の仲間が初登場、

豪華絢爛な和乗馬装束、そして勇壮なパレードに

沿道の観客からは、喝采の大拍手。

また、その蔭には感動的なドラマが…。



観衆と馬場を駆け巡る！



## 目次



- ♪ 特集！ 北條五代祭 ..... 2  
サドルバック&「自然・馬・人の会」が初登場！
- ♪ 新連載！ ..... 4  
「障害のある子もない子も、一人の自分でいられるんだね」  
(横浜: 福地さんファミリー)
- ♪ 総会の報告 ..... 6
- ♪ 乗馬会レポート(3月、4月、5月) ..... 6
- ♪ お願い、私たちの活動について ..... 9



会報 「土岐・運・来」 第十八号  
 発行 自然・馬・人の会  
 発行日 二〇〇二年六月九日(日)  
 只今の会員数 四十八 家族(正会員)  
 二十二 家族(協力会員)  
 一 家族(賛助会員)

特集!

サドルバック & 北條五代祭に「自然馬人の会」の仲間が初登場!



平成十四年五月三日、さわやかな五月晴れのもと、今年も北條五代祭が盛大に挙行された。今を去ることおよそ五百年前、室町時代に約百年にわたってその栄華を誇った早雲を

始めとする北條氏五代を想はせる戦国絵巻が繰り広げられた。

その武者隊、鉄砲隊につづく勇壮な騎馬隊の中に、ひととき新鮮やかな装束を身に纏った女武者騎馬隊の一团が周囲の注目をひいた。今回初めて参加した「サドルバック」と「自然・馬・人の会」の面々である。騎馬隊の先頭であったことにもまして、その艶やかないでたちは、小澤小田原市長扮する早雲を中心とした本隊に、勝るとも劣らぬみごとさであった。

「サドルバック」から参加した馬は全部で五頭。千太郎（乗り手はチャウチャウ）、つくし（きつちゃん）、あかね（中村さん）、くるみ（ウッキー）、団平（ゴマちゃん）の面々である。慣れない路上でのパレードや、大勢の観客を前にしてのパフォーマンスに緊張気味ではあったが、そこは乗り手の腕の見せどころである。日頃の練習の成果を遺憾なく発揮し、戦国時代を

彷彿とさせる鮮やかな手綱さばきは、多くの観客を魅了してやまなかった。

また、蔭の役者も見逃せない。みつちゃん（高橋さんの息子さんのみちゆきくん）と一緒にポロを担当したのは山崎さん。手際よくポロを処理する見慣れない光景は、思わず沿道の笑いをとつていた。山崎さんは途中で東京からかけつけてくれたコンドウさんと交代してから、急遽広報係に変身。観客の方々への乗馬会のアピールもちゃっかりこなしていた。恐るべし、「自然・馬・人の会」パワーである。

話は前後するが、いよいよ出陣の時である。何の前触れもなく、突如太鼓が連打された。とその直後、筋書きのないドラマは突然始まった。

その威勢のよい太鼓は、たまたまつくしの目の前でならされてしまったのである。驚いたのはつくしである。突如目の前で激しく打ち鳴らされた太鼓に仰天し、我を失ってしまった。すぐ隣には別の馬が隊列を作っている。その反対側は観客席が目の前まで迫っている。つくしの逃げ場はなかった。乗り手のみつち



やん、足軽の小谷さん、村山一利さんの決死の戦いが始まった。

狭い隊列の中である。どの方向であっても暴走させようものなら、怪我人が出ても不思議ではない状況だった。その場でつくしを静めるしかない。しかし、つくしは既に我を失い制御不能状態に陥っている。馬上から振り落とされそうになりながらも、手綱をしめ必死で声をかけ、つくしをなだめるきつちゃん。両サイドからそのどちらへも行かせまいと、全力でその動きを止めようとしながら、なんとか落ち着かせようとした小谷さんと一利さん。その必死の格闘の中で、小谷さんと一利さん、二人の足が踏まれてしまった。足軽装束のため素足同然の足をである。しかし、そんな三人の懸命のまさに身を呈しての連携は、ついにつくしをその場から一歩も動かさずに静めることができたのである。

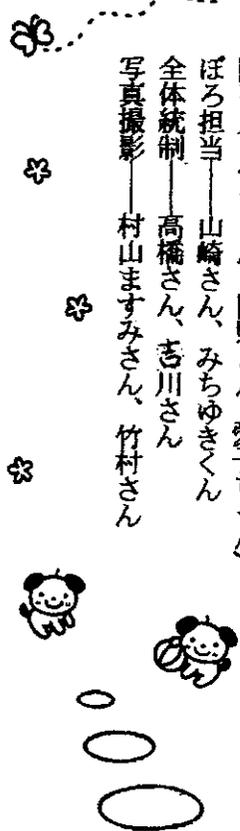
今年の北條五代祭の最もエキサイトで感動的なシーンは、実はこんなところにあつたのかも知れない。踏まれてしまった二人の足も、幸い大事には至らなかつた。

それから二日後、サドルバック牧場にはいつもと変わらず、海を眺めながら静かにまどろむつくしの姿があつた。そして、馬たちのこんな声が潮風にのつて聞こえてきた。



サドルバック、「自然・馬・人の会」からの参加者は次の通りです。  
括弧内は、(乗馬者、足軽隊、足軽隊)です。

- 千太郎 (チャウチャウ、ヤギさん、千夏ちゃん)
- つくし (きつちゃん、小谷さん、村山一利さん)
- あかね (中村悦子さん、桜井さん、郡司樹さん)
- くるみ (ウツキー、ぶーさん、中村章彦さん)
- 団平 (ゴマちゃん、関野さん、愛子ちゃん)
- ぼる担当 (山崎さん、みちゆきくん)
- 全体統制 (高橋さん、吉川さん)
- 写真撮影 (村山ますみさん、竹村さん)



皆さん、本誌にお疲れ様でした。来年は、もっと楽しみましょう。

つくし：『ホントになんだったのかしらねえ……』  
あかね：『つくしさん、ずっと目が三角だったよね』  
つくし：『村山さんと小谷さん大丈夫かしら……』  
千太郎：『……』

くるみ：『パレードのしよっぱな、門を出たとたんいきなり太鼓の音たもんね。さすがのわたしだってびつくりして頭絡(とうらく)壊しちゃった』  
千太郎：『……』  
あかね：『でもみんなきれいだったよね』  
だんぺい：『関野さん鎧着てるのに、着やせしてたね』  
千太郎：『……』

くるみ：『とにかくみんな練習のときからホントにたのしそうだった。それが何よりよ』  
つくし：『そうね。ホントによかった』



木曾馬のつくしやくるみの大きな背中に、健康くん(中一)とお父さんの健康さんが二人で跨る姿が、毎回とても印象的です。

四肢麻痺のために身体の緊張が強くなり、自分では支えられない健康くんの身体を、お父さんが後ろに乗って支えます。健康くんの手にあるのは、秘密兵器(?)ハート型のクッション。健康くんの緊張をいくらかでも和らげようとみんな考えているうちに、お母さんがご自身で作られたものです。

妹の舞ちゃん(小五)は、この日からボランティアアスタップとして初仕事です。

そんな梅地さん一家の二つをお母さんの羊子さんにお聞きしました。

\*\*\*\*\*



——乗馬会に参加する様になったきっかけから教えてください。

三年前、自宅近くの保土ヶ谷公園にこちらの馬が来て、出張乗馬会をしたのが最初です。障害者の身体と心のリラックスに乗馬がとて面白いって、お友達から聞いていました。

それでさっそく乗せてみると、そのころは身体が小さかったからか、サイドウォーカーが軽く手を添えるだけで、一人で乗れちゃっ



さん  
ちゃん

たんです。ふだんは一人で座っていることもできないのに……。不思議でしたよ。

——へえ、それは驚きますよね。



身体の緊張をほぐすのが目的でしたから、本人は動物がとて好きたし、これはいけるかなって思ったんです。

——その後の変化はどうでした?



毎月続けて来れば、だんだん緊張が落ちてゆくのが分かりました。とにかく、緊張の強い子にとって、緊張を抜くことが大きな課題なんです。それができているなって実感があります。

最初の二〜三回は緊張ですごい顔になっちゃうこともあるんですけど、そのうちにウツトリした顔になってくるんです。この前なんか、馬に跨ったまんま、寝ちゃったのかなと思ったりして……。 (笑)。

——リラックスしすぎだね (笑)。



\*\*\*\*\*  
——一方で舞ちゃんは今日からボランティア

アとして働いてくれますね。

うちみたいな障害者のいる家族って、どうしても障害者が中心になっちゃうんです。何かの会に参加するんでも、障害者の妹っていうおまけの存在なんです。 「妹さんも来たんだったら、ついでにのってみたら?」なんて言われたりして……。 いつも「ついで」にされちゃう……。

それがこの会では、障害があってもなくても、一人の会員としていられる。そのことがあの子にとっては、とても大きいのかも知れませんね。

——自分からやりたいって言い出した?

そう、自分から。あまり自分から「あれやりたい」って言わない子なんですけれど、とにかく「馬にかかわりたい」って……。

\*\*\*\*\*



# 新連載!

## ミルキーとハイジ

会員さんに、  
ききました!



第1回 障害のある子もない子も、  
いられるんだね。



横浜市保土ヶ谷区 福地義彦さん、羊子  
健康くん、舞ちゃん



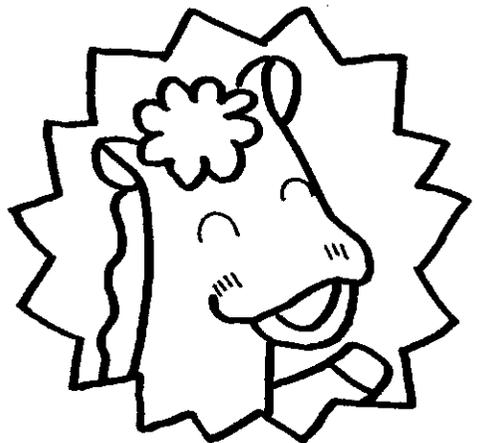
明るく楽しい福地ファミリー!

舞ちゃんは「この日、お父さんお母さんお兄  
ちゃんが帰ったあととも会場に残って、仕事を  
続けてくれました。家に帰っての第一声は「楽  
しかったあ」とのこと。  
お母さんの夢は、健康くんがひとりりで馬に  
乗れるようになること。馬上でウットリしな  
がら、いったい健康くんはどんな夢をみるの  
でしょうか。

(取材・二〇〇二年三月十日  
インタビュー&記事 坂梨悠)



お母さん特性のクッションに、大好きなお  
父さんと一緒に...



# 総会の報告



四月二十一日、小田原市中央公民館にて、二〇〇二年度「自然・馬・人の会」の総会が開かれました。

今回は「自然・馬・人の会」の会則案が作成され、説明、配布されました。また昨年度の事業・会計報告、今年度の事業・会計報告、そして今年度の運営委員のメンバー紹介と進み、これらについて承認されました。

さて、普通の総会報告でしたらここまでなのですが、そこが「自然・馬・人の会」の違うところ。実はこの総会、開会の前に中村さんご夫婦によるギターとフルートのミニコンサートで始まったのです。また終わってから、桜井さんのクラシックギターによるコンサートがひらかれました。来られた方の中には、いつもとは違った三人の様子に驚く人あり、演奏に聴き入る人ありでした。また、乗馬会でいつも撮っている写真を、スライドを使って紹介したり、総会終了後には、過去の北條五代祭りや、テレビ番組で紹介されたサドルバックのビデオ映像を鑑賞したりしました。何がメインで来たのかを忘れるくらい、いろんなことが盛りだくさんでしたが、「しっかりやらなければならぬところをはっきりやる。それでいて楽しいこともやっちゃおう！」という、いかにも「自然・馬・人の会らしい総会」として考えれば「納得」でした。参加された方の人数がちょっと少なかったことが寂しく感じられましたが、来られなかつ

た皆さんも次回は、いつもの乗馬会とはまた違った楽しみを逃さないよう、ぜひ総会の方へも足を運んでみて下さい。

## 乗馬会レポート

三月十日の乗馬会から

参加人数

会 員 三十七名

当日受付 六十名

ボランティア 四十二名

馬に接したのは保育園の遠足でポニーに乗って以来という有り様だった私が、同じ職場の先輩の木下さん(ゴマちゃん)に誘っていただいたのが縁で、乗馬会に参加させていただくようになってから、はや一年半が経ちました。

小動物好きの私は、はじめは馬の大きさに驚いてしまったのが本当でしたが、長いまつげとつぶらな瞳、ふさふさあったかい毛並みに魅了され、なんだかこまでできてしまいました。

しかし、何度研修を受けても馬装は間違えるし、速足(はやあし)になれば四肢顔面硬直で乗っているのが精一杯です……。いちおう身体障害のリハビリの仕事をしている



最高の笑顔で、手綱さはきもバッチリ!

ものですから麻痺などの障害のある

方に接する機会が多いのですが、乗馬会で「身体の事はカシワギさんに聞いて下さい」という言葉を聞くと身がすくんでしまいます。

そんな自分の言い訳をするわけではないのですが、つくづく馬はすごいと思う今日この頃です。というより、馬にはかなわないと思います。思いはじめています。

毎月、会う毎に姿勢やバランスがよくなっています。なにより乗馬会での表情の豊かさ。訓練室ではなかなか見られない笑顔や歓声に、思わず「かなわない……。」とつぶやいてしまいます。馬に任せておけばちゃんと治してくれます。

そんなカワイイのにスゴい馬たちのためにも私自身もつと馬と仲良くなりた、今の「馬に片思い」の状況から脱却したい、と念じている次第です。

(相木珠江)



3月の乗馬会では、跳び箱を使った特別研修もありました。(乗下馬の補助について)

四月七日の乗馬会から

参加人数

会員

三十七名

当日受付

四十七名

ボランティア

三十七名



例年だとお堀端の桜が満開で、一年のうち最も人出の多い乗馬会になるこの四月。今年には既に花は散り葉桜の緑が眩しい。その上、六日夜からの雨で、私は七日の乗馬会はきつと中止になるだろうと思いきんでいた。ところが、七日朝五時半、馬主の高橋さんと中村運営委員が話し合いを始めた頃、雨足は弱まり天気は急速に回復に向かっていた。そこで

一気に「実施」と決定された。連絡を受けたボランティア達は一瞬耳を疑った。特に遠く埼玉・東京・横浜方面はまだまだ雨足が激しかったようだ。「エッ、やれるの?」

さて、九時半から始まった会場は、一時の雨がバラバラしたものの強い風が雨雲を押しやってくれ、午後は青空の下での乗馬会になった。それでも地区によっては回復せずやむを得ず欠席された会員さんもおられた。

私は受付の担当。四月は会員登録の切替えに当たるのでカウンターは混雑する。書類をもらい忘れて何度か会員さんのもとへ走った。一段落して乗馬会の様子を眺めていると、ボランティアの人達は騎乗者の子ども達にいろんな乗馬姿勢をアドバイスし、子ども達も前回とは違った乗り方を楽しんでいたようだった。最近では、乗馬記録にお母さんお父さんが気づいた点も記入してもらうことで、ボランティアのサポートにも一段と深みが増しているように感じる。その上、お子さんが馬に乗っている間ボランティアで参加して下さる方々が増え、この乗馬会が皆で支えあっている、育てあっている場になってきていると感じられるのがうれしい。

コーンの外では、サドルバックのスタッフが注意深くこの風景を見守っている。馬が疲れていないか、適切な動きをしているか注意をはらって下さるのだろうか。そういえばこの女性スタッフ達は当会の中村、きつちゃん、ウッキーらと共に、五月の北條五代祭に

装束をつけて行列に参加する予定である。

又、受付カウンターの前には三月に急逝された安西陽香ちゃんの写真が飾られ、ご遺族からのお礼状が届いていた。今迄乗馬会の時には連絡をとりあっていた愛子ちゃんや千夏ちゃん達の声も心なしか寂し気だった。

一方で、防災ボランティアとの話し合いがもたれた。当会ではかねてから他の会との連携を考えながら交流活動を進めてきたが、この度防災ボランティアの人達が昼食の炊き出しが出来ないか検討を始められた。防災の会では、阪神大震災を教訓に顔の見える活動を目指し、かつ体験の場を得ることで実践マニュアルを作ることができるとは思わないかと、話し合われているのである。当会でも乗馬スタッフの充実をすすめているので、防災ボランティアの皆さんの協力が得られれば益々サポート陣の充実を計ることが出来る。これからの進展が期待される出会いとなった。このような機会をこれからも大いに活用し、ボランティアスタッフを大切に育てていきたいものである。

(山崎 朋子)



余裕の笑顔です!



乗馬会はまず楽しむところから！

五月十二日の乗馬会から



参加人数

会員

四十八名

当日受付

八十名

ボランティア

四十三名

桜井代表の「ケガをしないように！」とい



う発言で、朝の準備が始まりました。実は、

「北 五代まつり」をサドルバックのお馬さん十会の方々に華々しく飾ったのですが、残念ながら馬でケガをされた方がいたので、

毎回、新しいボランティアの方が参加されまた、会員の方々も、早、昨年度の会員数を上回り、各回十人以上のプログラム乗馬となりました（受付で手間取り、お待たせしてすみません）。それにしても、子どもさんのパランス感覚には驚きます。いとも簡単に後ろ向きで乗っています！ 大人の方の、姿勢の良い乗馬姿は実に格好いいものでした。こんなこともありました。「乗馬って、怖いんでしょ？」

「乗ってみないとわかりませんよ」という会話のあと、曳き馬に乗った女性は、「気持ち良かったわ」と言って、帰られました。

また、小田原災害ボランティアネットワークの方々、「炊き出しの訓練」ということで参加され、お醤油などを加えたご飯は美味しくて、炊き出しのイメージが変わりました！

今回は全員無事でした。次回からも、ケガなく、乗馬を楽しんでくださいね！

（フクグ）

——災害ボランティアの方から、感謝を寄せ

ていただきました。——



五月十二日（日）馬の会の方々や災害時の非常炊き出し訓練ができたことは、われわれ

メンバーにとっても大変有意義なものでした。

非常用の炊き出し袋を市役所から頂き、食べる本人が水を入れ、しょうゆを入れ、あとは鍋に入れるだけで、美味しいご飯が食べられるのです。当日は総勢四十名程度の方々とお昼を野外で美味しく頂けたことに感謝して



一緒に来られたご家族の皆さんにも、楽しんで頂いています。

います。何か災害が発生したときに大量の炊き出しが必要になると思います。このような活動を続けて少しでも神戸の教訓を風化させない活動ができたらと思っています。

その他、当日を振り返ってメンバーより出てきた感想としては、袋に名前を書く人、水やしようゆの入れ方、輪ゴムのしぼり方など流れ作業でうまくできてよかった。名前は上の方に書くと、しばったとき見えなくなるのと、馬の会の人においしいと言ってもらえうれしかったこと。今度は袋を当会で名前入りで印刷してPR活動に役立てよう、炊き出しの経験を利用してキャンプ行事をやらう、炊き出しだけでは勿体無いので、パネル展示をしたらなど今後の発展的な意見も出ました。今回のイベントでメンバーの知られざる特技が随所に見られ会の活性化にもつながりました。

ただ馬の会の人たちには馬の仕事が有り、休憩時間も忙しそうで、交流があまりできなかったところもあり、今後の課題かと思えます。

最後になりましたが、馬の会の方々には多大なご芳志を頂きまして、誠にありがとうございます。

(小田原災害ボランティアネットワーク

夏目孝茂さま)

### 運営委員会から...

#### —— 駄目 ——

これまで、愛子ちゃんや、千夏ちゃん達と一緒に、若手のボランティアとして、大活躍をしてくれました。安西陽香（はるか）ちゃんが、三月二十六日に急逝されました。あまりの急な出来事に、発する言葉も思いあたりませんが、心から「冥福をお祈り申し上げます。乗馬会で姿を見ることはできなくなりましたが、それでもこれからもずっと一緒にだと、信じて行きたいと思います。



陽香ちゃん、これからもずっと一緒にだよ！

#### —— お詫い ——

前号の記事の中で、会員の皆さんの名前を謝って紹介してしまいました。謹んでお詫び申し上げます。誠に申し訳ありませんでした。

会報十七号 六ページ目

「フリーマーケット出品のご協力」にて

誤：正会員、安瀬さんのご協力で、

正：正会員、安西さんのご協力で、

安西さん、及び関係者の皆様には、深くお詫び申し上げます。

#### —— お買い ——

①フリーマーケット出品のご協力

正会員、安西さんのご協力で、乗馬会当日以外のフリーマーケットにも参加させて頂いています。ご家庭に眠っている不用品等がありましたら、是非、ご協力をお願いします。ご連絡は中村まで。

フリーマーケットは、毎月のようにありますので、いつでも受け付けております。

②受付名簿にお名前を！

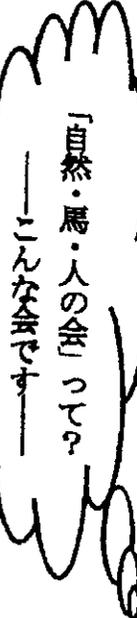
先月より、ご提供を頂いた方の「提供品受付名簿」を用意してあります。ご提供だけしましたら、忘れずにお名前を記入してください。

#### —— 乗馬会開催日のお知らせ ——

六月九日（日）

七月十四日（日）の予定です。





「自然・馬・人の会」って？  
—こんな会です—

馬がいる。子供がいて、おばあさん、おじいさんがいる。車椅子で来た人が背筋を伸ばして馬に乗っている。仲間とやっ来てサイドウカーをやっている若者が声をかけている。馬が駆け出すと歓声があがる。笑顔が広がる。補装具を足につけた子が、ここで出会った友だちとボール遊びをしている。取りそなうって転がったボールを一緒に来たお父さんお母さんがあわてて取りに行く。豚汁のみその香りが、ぷーんとただよう。昼食を囲むテーブルの向こうで、アサヲト、カリンバなどの楽器を鳴らして遊んでいる人たちがいる。本を読んでくれる人のまわりで子供が一心に耳を傾ける。

これが小田原の乗馬会の風景です。乗馬会には誰もが参加できます。誰もが同じ場所でお互いに関わりを持つたり持たなかつたりしながら、それでも目のすみにそれぞれを感じながら、それぞれの豊かな時を過ごしている。そして参加する人はみんなそれぞれに楽しんでいきます。そのこと—みんな一緒ということですが、今の時代にはとても大切な事だと思っております。そして、みんな一緒ということからどんな発想や出来事が生まれてくるのか、とても楽しみです。本当にこれから何か動き出していきそうな気がします。あなたもそれをわたしたちと一緒に体験してみませんか。



活動内容

★ 定例乗馬会

毎月一回（年十回）二月、八月はお休み  
小田原城址公園内歴史見聞館東側にて  
プログラム乗馬



★ 当日乗り

乗馬が初めての方でも気軽に乗馬を体験できます（どなたでも）  
一週引き馬料……五〇〇円

★ 出張乗馬会

ご希望のあった保育園、幼稚園に馬を持込んでの乗馬会をコーディネートしております。お申し込み、ご相談は代表まで。

メンバー・資金金構成

★ 正会員

・家族単位で年会費一〇、〇〇〇円（五回分の回数券を含む）四月が切り替えます。  
・会費は通信費・事務費・印刷費、馬借代の補助等に使われます。

・会報（年四回）乗馬会日程をお届けします。

・ご家族体験乗馬券を差し上げます。（乗馬会参加時）

★ 協力会員

・長期的にボランティアとしてお手伝いをお願いできる方を、協力会員として登録させていただきます。（年会費 千円）  
・乗馬会日程をお届けします。都合がよい日に申し込んで下さい。

・仕事内容、馬を引く、馬に乗る人のサポート、受付・食事作り・テント設置など。

★ 運営委員会

・各会員の中より自主参加で構成。

・役割分担をして会の運営に当たっています。

★ 賛助会員

・この会を経済的に応援して頂いています。  
・協賛金：二〇二〇、〇〇〇円（会の運営費、馬具の購入などに使わせて頂きます）

小田原で、もつと身近にもつと楽しく自然と馬とがふれあい集えるように、広く仲間を募集しています。一緒に楽しみませんか？

お問い合わせ

〒250-0045  
小田原市城山 1-3-22  
「自然・馬・人の会」代表  
桜井 広利  
TEL : 0465-32-1308  
FAX : 0465-32-1332  
振込先  
郵便振替口座 00270-4-79944  
「自然・馬・人の会」桜井広利